

# そらうがく

(No. 76)

R6. 3. 1 発行

現職研修委員会  
総合的な学習部編集



## 先生方の気概が溢れる総合学習

総合的な学習部長 中垣 明道

令和五年度が無事終わろうとしています。私は、縁あって総合的な学習部会の部長を二年務めさせていただきました。担任として総合的な学習に関わった経験が希薄であったにも関わらず、こうして務めることができたのは(力不足でしたが)、教育委員会、部長先生、指導員の先生、世話係の先生、そして現場の先生方のおかげだと思っています。

この二年間は新鮮な学び・感動の連続でした。それは総合的な学習が規定の教科にとらわれることなく、言わば「何でもあり」の領域によるからのことでしょう。少し乱暴な言い方になりましたが、それくらいの気概で各校の先生方が取り組んでみえることをいろいろんな場面で知ることができました。

令和五年度の授業力・教師力アップセミナーでは「主体的・協働的に探究し、新たな価値を創造する楽しさを実感できる生徒の育成」と題し、竜海中学校の武井翔先生による一年生の防災学習の実践の論文発表がありました。生徒自らが地域の防災事情を調べ、防災アイデアグッズを製作、さらにはこれまでの成果をラジオ番組に出演し、発信していました。言葉での紹介は簡単なことですが、この実践を完結

させるために、武井先生をはじめとする先生方のご苦労は想像を絶するものだったことでしょう。しかし、その苦労も、生徒の生き生きと取り組む姿や成就感、各家庭や地域の防災に対する意識の変容を目の当たりにし、報われたのではないのでしょうか。

教育研究大会でも、各学校の先生方の気概がひしひしと伝わってきました。小学校では美合の室「生田ホタル」、六斗目川のみちガエル、井田んぼの米作り、ツバメとスズメ仲よしプロジェクト、小豆っ子の大豆大研究、ササユリ新聞、下山クアオルトコースなど、それぞれの学校や地域に根ざした「ひと・もの・こと」の探究からダイナミックな実践が始まっています。また、「総合的な学習が楽しくない」という意識調査が発端となり、台湾との交流実践は特筆すべきものでした。中学校でも学区の人口の変化から郷土の未来を展望したり、ESDの視点から環境保全を考えたりする実践が発表されました。

教育研究大会の発表者は若い先生がほとんどでした。これからの岡崎の教育を担っていかれる凛々しいお姿と発表を頼もしく感じました。その先生方もこれからの岡崎、ひいては日本を担っていく子どもたちの成長を考えての実践だったことでしょう。

来年度どんな実践が行われるのか楽しみで仕方ありません。失敗しても大丈夫。先生方の気概が子ども

もたちに伝わらないわけはありません。最後に教研助言者の西村公孝先生のお言葉を添えます。「つまずき、失敗、立ち止まりこそ大切です。」

## 本年度の指導員訪問報告

本年度は、地域の「ひと・もの・こと」を生かしたダイナミックな単元を構想された先生方がたくさんいらっしゃいました。ここでは、地域素材を扱い、学習課題に対して子供の切実感を高めながらの授業を展開された先生の実践を紹介させていただきます。

A 中学校のB先生は、滝山寺鬼祭りを教材化されました。鬼祭りの価値や地域住民の思いを知った上で存続の可否について問いかけたため、子供は学習課題に切実感をもつことができました。C 中学校のD先生は、岡崎市の観光地のごみ問題を教材化されました。市役所観光推進課の方と連携し、市が抱えるごみ問題の現状を把握した上で問題の解決方法を考えたため、子供は自分の住む学区の様子を振り返りながら具体的な方法を考えることができました。

岡崎市では、全市的にチーム学習に取り組んでいます。個別最適な学びの実現において、チーム学習は大変有効な手だてだと感じています。各校を訪問させていただく中で、共有した情報を基にチームで意見を練り上げることをねらった場面が多々ありました。明確な目的意識と適切な手段を示すことができれば、チームでの関わり合いの効果も上がると考えます。今後は、共有した情報を整理・分析するための視点や方法の与え方を考えたいと思います。

# 第一回岡総研の報告

第二回の岡総研の報告です。今回は、三十名を超える先生が参加してくださいました。

第一部の久野先生のご講話では、「全国学力学習状況調査」をクロス集計し、教育のこれからの方向性が見えてくること。教育課程改革のキーワードとして、「スロー・ペタゴジー」、「発達や学びの連続性」があることを教えていただきました。また、「自由進度学習」によって、子どもが自ら課題を設定し、自分の資質・能力に応じて、教科単元学習に取り組んでいる学校があることを紹介していただきました。これからは、「生涯探究社会」に向かっていくことや、一人一人の個人や社会が目指す姿「ウェルビーイング」が必要だと示唆してくださいました。

第二部の懇談会では、実際に取り組んでいる実践内容を持ち寄り、さらなる資質・能力向上のため、意見の交流を行いました。

総合的な学習部には、多くの経験を積まれた先生方が多数お見えです。「こうしてみたかった」や「こんな実践をしたことがあるよ」など、具体例を示しながらの意見の交流は、豊かな実践を構想していく上で一つのきっかけ作りとなりました。

この会にあたり、情宣していただいた主任の先生方に感謝します。

次回は、三月八日（金）を予定しています。お時間がありましたら、ぜひご参加ください。

# 学び舎の 総合耳寄り情報

一年生は「どうする矢北SDGs」をテーマに、学区を住みよい町にするにはどうすればよいかを考えました。岡崎市や企業の取組を、Myタレットや保護者のインタビューを通して学習しました。食品ロスや、防災対策について広く知ってもらうためのポスターを作って啓発活動をした、学区の防災訓練に積極的に参加したいという生徒一人一人の思いを高めることができました。



矢作北中学校 天野 真由

矢西学区には、たくさんイチゴ農家があります。三年生は、「イチゴのひみつ大発見」をテーマに、農家の方の温室を見学し、育て方の工夫を学びました。自分たちでも「べにほっぺ」を学校の温室で栽培、観察し、おいしいイチゴを育てる苦労を実感しました。自分のイチゴの成長に一喜一憂し、農家の方のお話を思い出し、農業に携わる方の工夫や苦労、そして、思いに触れることができました。



矢作西小学校 天野 行美

本校では、まちの防災について考えています。家でできる防災に焦点を当て、災害前に備えておくことができる防災グッズの中身を見直し、身近なものを使って、防災グッズを作る活動を行いました。その経験を生かし、六年生が四年生とチームを組み、自分たちでできる防災について考えていきます。

六ツ美北部小学校 山崎 希



本校では、高学年の児童が地域の人とふれ合いながら、農業や学区の伝統について学んでいます。講師として、藤川まちづくり協議会の方に来ていただいています。二月に「米作り感謝の会」を行った五年生は、米作りの知恵や工夫、大変さを知り、協力してくださった地域の人へ感謝の気持ちを伝えました。藤川小学校 松下 望羽



本校の三年生は、「岡小学区の古いもの・新しいもの」をテーマに学習をしています。今回は、新しいものとして学校の隣にできた岡崎信用金庫岡崎医療センター前支店へ見学に行きました。ATMを搭載したトラックやかまどベンチ、災害用井戸などがあることを知り、災害時でも地域の人の役に立ちたいという会社の思いを感じることができました。岡崎小学校 大野 紗奈

